同	A″	四三・九%	同	9	同　三四・六%

(二)弓張嶺附近　大陽、大柏、高家堡子、啞叭嶺等にして探鑛箇所は大陽、大柏なるも表土多く露出部少なく探鑛困難にして井戸掘坑道掘に依り探鑛せるも結果面白からず大陽第一坑道第十坑道より大柏二十八號三十一號井戸に到る間綠泥片岩の接觸面に富鑛を認め連續的のものと思はるも探鑛不十分にて鑛量を計上する能はず又第二坑道第八坑道にも部分的富鑛を認む大體に於て蘇家堡子の鑛床に類似するも貧鑛の巾厚く四百尺乃至九百尺に及び長さも大にして一萬尺に達し貧鑛として六千萬噸を概算し綠泥片岩變化に富むを以て今後探鑛によりて相當の鑛量を得べし高家堡子は未だ探鑛に着手せざるも所々に富鑛露出し相當鑛量を有す啞叭嶺は弓張嶺村落の北に東西に走れる鑛床にして他の鑛床よりも其規模小にして未だ富鑛を認めず。主なる箇所の分析結果次の如し。

大陽第一坑道	七〇・四%	高家堡子	A	六六・六%
同　第二坑道	五六・二	同	B	六八・四
同　七號井戸	六四・六	同	C	六八・六
同　八坑道	六九・四	同	D	六三・四

(三)黃泥溝　最東端に位する產地にして啞叭嶺及何家堡子方面より西黃泥溝に至る道路の北側山腹に存する鑛床にして其延長四千尺にして諸處に舊坑跡を認め是れが部分的探鑛をなし四箇所の富鑛を見出せり鑛床は塊狀をなし其中大

なるものは第一及第三なりとす、第一は北二十度東にて約七十度の傾斜をなし延長六十尺巾約二十尺なり、第二は略〻第一に平行にて延長百尺巾二十尺なり。尙十分探鑛の必要あるべし。

(四)金家堡子　本溪湖煤鐵公司の所有にして鑛區としては鞍山附近鐵石山に比すべき小區域なれども富鑛量頗る多きが如し、大正六年十月より昨年十二月迄約三萬噸の採掘をなし貯鑛せり鑛床の東部は塊狀鑛床にして長さ約二百尺巾二十五尺綠泥片岩及花崗岩質片麻岩中に胚胎せらる、是れより以西約六百五十尺は下盤に沿ひ富鑛を認め西端は上下盤に富鑛を存す全體の傾斜は約四十度にして東端塊狀鑛床は錐狀をなし下部尖滅する狀態にあるも是れ以下二十尺として富鑛約八萬噸を概算せり主なる分析の結果次の如し。

A	五九・〇%	D	六六・六%
B	三二・四	F	六三・八
C	五八・四	E	五九・二

製鐵業振興策

財政經濟調査會

第一本邦製鐵業の過去現在

歐洲大戰前に於ける本邦製鐵事業は其の發達頗る遲々たるものにして大正二年に於ける內地の生產額は銑鐵二十四萬三千噸、鋼材二十五萬五千噸に過ぎず而も之に對する需

要額は銑鐵五十一萬六千噸、鋼材七十八萬四千噸にて生産額と相距ること頗る遠く其の不足額は輸入に仰がざるを得ざるの狀況なりしも大正三年歐洲戰爭開始以來鐵鋼材輸入の困難は內地工業の發展と相俟つて製鐵業の勃興を促し之が爲め既設の製鐵所にして其規模を擴張し又は新に事業を經營するもの相踵ぎ大正七年に於ける生産額は銑鐵六十萬六千噸鋼材五十四萬噸に達し戰前に比し其の産額倍加するに至り特種の鋼材を除くの外大部分の鐵鋼材は自給し得るの見込あるに至れり然るに休戰となり鐵鋼材の價格暴落するや斯業の經營は忽ち困難となり大正八年に於ては辛ふじて前年の生産狀態を持續したりと雖も大正九年に入り益〻不況を呈し漸くにして勃興したる製鐵業も遂に萎靡不振の狀態に陷り以て今日に及べり、今最近數年間に亘り本邦鐵鋼材の需要供給並に生産の狀態を示せば左の如し。

甲　鐵鋼材（單位佛噸）

一　內地需要額

銑鐵需要額

	內地生産額	輸移入額	合計	輸移出額	差引需要額
大正五年	三九一、八九二	二三七、六五五	六二九、五四七	一、六四二	六二七、九〇五
同　六年	四六二、七九二	二三五、〇八二	六九七、八七四	三、三三三	六九四、五五二
同　七年	六〇六、四二八	二六七、七四一	八七四、一六九	一、一四六	八七三、〇二三
同　八年	六一二、六〇九	三五二、一五一	九六四、七六〇	一、八九四	九六二、八六六

鋼材需要額

	內地生産額	輸移入額	合計	輸移出額	差引需要額
大正五年	三八一、二二一	四一六、九六八	七九八、一八九	二〇、二四六	七七五、九四三
同　六年	五一三、四四五	六七三、二一〇	一、一八六、六五五	五一、七三八	一、一三四、九一六
同　七年	五五九、六三七	五五二、六〇一	一、一一九、四一七	六一、〇〇七	一、一二九、四一〇
同　八年	六五〇、七八〇	七三五、二四四	一、一七七、八四五	一〇五、二四〇	一、一七二、六〇五

二　內地生産額

內地生産額

	銑鐵	鋼材
大正五年	三九一、八九二	三八一、二二一
同　六年	四六二、七九二	五一三、四四五
同　七年	六〇六、四二八	五三九、六三七
同　八年	六一二、六〇九	五五二、六〇一

三　移出入額

附　朝鮮及臺灣に於ける需要額並に朝鮮に於ける生産額

銑鐵移出入額

	移出	移入
大正五年	一、六三六	—
同　六年	三、〇四一	—
同　七年	四、九三六	一、四二〇
同　八年	一、五三九	六八、九八五

備考　移出は臺灣、移入は朝鮮なり

鋼材移出入額

	移出	移入
大正五年	一二、三三四	二六〇
同　六年	一五、八七五	四六七
同　七年	一三、九八八	四三九
同　八年	四一、六九一	三、四一三

備考　移出は朝鮮及臺灣、移入は朝鮮なり

朝鮮に於ける需要額及生産額

銑鐵

	大正五年	同　六年	同　七年	同　八年
生産	—	二	四二、六九八	七八、三八四
輸移入	—	—	—	—
合計	—	二	四二、六九八	七八、三八四

輸移出	—	—	四二、〇六一	七二、四四七
差引需要	—	二	六三七	五、九三七

鋼材

生産	大正五年	同六年	同七年	同八年
輸移入	八、六三六	九、九六八	一一、五二八	三七、二七二
合計	八、六三六	九、九六八	一一、五二八	四一、八五六
輸移出	二六〇	四六七	四三九	三、四一三
差引需要	八、三七六	九、五〇一	一一、〇八九	三九、四四三

臺灣に於ける需要額

銑鐵

	輸移入額	輸移出額	差引需要額
大正五年	一、六三六	—	一、六三六
同六年	三、〇四一	—	三、〇四一
同七年	九三六	—	九三六
同八年	一、五三九	—	一、五三九

鋼鐵

大正五年	一一、四一三	一五	一一、三八八
同六年	一六、七七四	一九八	一六、五七六
同七年	一三、四四二	三九	一三、四〇三
同八年	一四、〇六五	一八	四、〇三七

四　輸出入額

銑鐵輸出入額

	輸出	輸入
大正五年	六	二三七、六五五
同六年	二八一	二三五、〇八一
同七年	二一〇	二二六、三二一
同八年	三五五	三八三、一六四

鋼材輸出入額

	輸出	輸入
大正五年	九、九一二	四一六、七〇八
同六年	三、八六四	四六七、七〇三
同七年	四七、〇一九	六五〇、三四一
同八年	六三、五四九	七〇一、八三一

乙製鐵原料（單位佛噸）

一　內地需要額

鐵鑛需要額

	大正五年	同六年	同七年	同八年
內地產出額	一三九、九三三	二二九、四五七	三五九、九〇三	三六三、〇〇〇
輸移入額	四七〇、〇一六	四一七、七八八	五九八、七七三	九五八、九八六
合計	六〇九、八六九	六四七、二四五	九五八、六七五	一、三二、九八六
移出額	七、三〇一	一〇、二二八	八、三三九	二、六五七
差引需要額	六〇二、六六八	六三七、〇一七	九五〇、三三六	一、三一九、三三〇

石炭需要額

	大正五年	同六年	同七年	同八年
銑鐵製造用	七八三、八〇〇	九二五、六〇〇	一、二二、八〇〇	一、三三五、〇〇〇
鋼材製造用	六八六、〇〇〇	九二四、二〇〇	九七一、三〇〇	九九四、七〇〇
合計	一、四六九、八〇〇	一、八四九、八〇〇	二、一八四、一〇〇	二、三一九、七〇〇

備考　製鐵用石炭の過去に於ける實際の需要額不明なるを以て銑鐵製造用炭は銑鐵一噸に付二噸、鋼材製造用炭は鋼材一噸に付一噸八分を要するものと假定し各年次に於ける生産額に基きて推算せり。

二　內地產出額

鐵鑛及石炭產出額

	鐵鑛	石炭
大正五年	一三九、九五三	二二、九〇一、五八〇
同六年	二二九、四五七	二六、三六一、四二〇
同七年	三五九、九〇二	二八、〇二九、四二五
同八年	三六三、〇〇〇	三一、二七一、〇〇〇

備考　石炭に付ては內地に於ける石炭產出額の總數量を揭げたり。

三　移出入額

附朝鮮に於ける需要額及產出額

鐵鑛移出入額

	移出	移入
大正五年	七、三〇一	一九〇、二二五
同　六年	二〇、二二八	一二〇、九〇七
同　七年	八、三三九	二三六、六一一
同　八年	二、六五七	三三七、九〇一

石炭移出入額

	移出	移入
大正五年	一三九、一五四	一二二、〇三四
同　六年	三二〇、九八六	一四一、〇六三
同　七年	三三〇、八五九	一一七、八八六
同　八年	三七六、八九九	一四八、九三九

備考　製鐵用石炭の移出入額は不明なるを以て石炭移出額の總數量を掲げたり。

朝鮮に於ける需要及産出

鐵鑛

	大正五年	同　六年	同　七年	同　八年
産出額	二四五、四一八	一五二、九三三	四三〇、七八七	四一七、〇〇〇
輸移入額	—	—	—	—
合計	二四五、四一八	一五二、九三三	四三〇、七八七	四一七、〇〇〇
輸移出額	二一九、一三〇	一四八、五一一	二五〇、五七六	二五四、三六五
差引需要額	二六、二八八	四、四二二	一八〇、二一一	六二、六三五

石炭

	大正五年	同　六年	同　七年	同　八年
産出額	一九〇、七六〇	一九五、一四二	一八七、六二三	二一九、五五四
輸移入額	四〇八、七〇七	五五八、一七〇	七六二、八五三	九一九、八〇三
合計	五九九、四六七	七五三、三一〇	九五〇、四七六	一、一三九、三五八
輸移出額	一二四、六〇二	一二四、八九〇	一三二、二四〇	八九、一五一
差引需要額	四七四、八六五	六二八、二二〇	八二八、二三六	一、〇五〇、一〇六

備考　製鐵用石炭の需要額及産出額不明なるを以て石炭の總需要額及總産出額を掲げたり。

四　輸入額

製鐵原料輸入額

	鐵鑛	石炭
大正五年	二七九、七九一	五六〇、五二三
同　六年	二九六、八八一	七一八、七三九
同　七年	三六二、一六三	七三八、〇八五
同　八年	六二一、〇八六	七一〇、八四〇

備考　製鐵用石炭の輸入額は不明なるを以て石炭輸炭額の總數量を掲げたり但製鐵骸炭用として輸入せられたる支那炭の數量は大正六七八年に於ては年々約二十萬噸乃至二十五萬佛噸なり。

丙　製鐵工場

一　内地製鐵工場數（大正九年八月）

イ、戰爭前に於ける製鐵工場	二二
ロ、現在に於ける製鐵工場	二三二
ハ、製鐵業奬勵法の適用ある工場	五一

内

銑鐵製造工場	一九
鋼製造工場	二三
銑鐵及鋼製造工場	九
合計	五一

右の内戰前よりの經營に係るもの九、戰爭開始後の新設に係るもの四二。

二　内地製鐵設備（大正八年末）

鎔鑛爐

作業中	二七〇噸	二五〇噸	二二〇噸	二一五噸	一五〇噸
計畫中	一	一	二	一	一
	一	三	—	—	二
	一三〇噸	一二〇噸	一〇〇噸	八〇噸	六〇噸
作業中	—	二	二	一	一
計畫中	—	一	三	—	—
	五〇噸	三五噸	三〇噸	二五噸	二〇噸
作業中	一	一	二	二	八

| | | |

戸畑鑄物會社	五噸●	四		
安來製鋼所	一五噸●●	一一	火窪	六
			三噸□△	一一
三菱造船長崎製鋼所			一五噸□	一一
三菱造船神戸造船所				
日本鑄鋼所			一噸半⊙	二
富士製鋼會社	七噸◇	一	一噸半⊙⊙	一
			二五噸□□	二
日本高速度鋼會社				
岩淵製鋼所			五噸□	一
日本製鐵會社	五〇噸×	一	△▲	八
大倉鑛業山陽製鐵所	二〇噸×	二		
石狩製鐵所	二五噸×	一		
日本電氣製鐵會社	△	五		
後志製鐵會社	二〇噸×	一		
住友製鋼所			五噸□	一
			八噸□	一
			一五噸□□	二
藤田鑛業廣田製鋼所	五噸□▲	一〇	△	五
住友伸銅所尼ヶ崎工場			二五噸□	三
廣島鐵工所	五噸◇	八	一噸⊙	一
	一〇噸◇	一		
日本鑄鋼會社			一噸半⊙	一
			一噸基⊙	一
			九五〇基⊙	一
福井銑鐵會社	二〇噸▲	一		
	一五噸	一		
朝日興業會社	△	三		
伊藤製鋼所			八噸□▲	一
				三
仙人製鐵所	一二噸×	一		
	一五噸×	一		

電氣製鋼熱田工場	△	三		
同木曾福島工場			△	二
山陽製鐵會社	一八噸×	一		
川崎造船兵庫工場			一〇噸□	三
同葺合工場			一五噸□	七
高田鑛業大寺製鐵所	△	一四		
田中鑛山釜石鑛業所			一〇〇噸×	一
			二〇〇噸×	一
			三五噸×	一
			六〇〇噸×	二
			一二噸×	二
			二〇噸×	一
九州銑鐵會社	二〇噸×	一		
備考 ×高爐 △電氣爐 □平爐 ▲坩堝爐 ⊙轉爐 ○製銑爐 ◇熔銑爐				

四 鐵工場骸炭製造設備

製鐵工場 コッペー式 コッパース式 ビーハイブ式 大正八年產額				
	臺	臺		佛噸
製鐵所			一二〇（ソ式一五〇）（黑田式一〇〇）	三七三、三三三
日本製鋼所	一五〇	—	一二〇	—
田中鑛山會社	八二	三〇	一五〇	六七六
神戸製鋼所廣島工場	—	—		一二六、七二四
日本製鐵會社	—	—		四三五
東洋製鐵會社	—	—		一三七、七四二
石狩製鐵所	—	—	四〇	二、八九二
	—	一三六	一三〇	三一、六〇〇
			（八式一三〇）	一一七、五七九
合計	（ソルベー式一五〇）（黑田式一〇〇）（ハルデー式一三〇）	一四〇七		六七九、八六九

五 主要製鐵工場資產

	資本	拂込資本	借入金	積立金	繰越金	九年上半期配當	九年十一月調
	萬円	萬円	萬円	千円	千円		
製鐵所 投資	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
大阪製鐵會社	五三〇	五三〇	七五	一〇一	—	—	—
大島製鋼所	六〇〇	三五九	一六九	一六三	—	—	—
淺野小倉製鋼所	一、五〇〇	六〇〇	三三	—	—	—	—

日本銑鐵會社	一五〇	七五	—	—	休業
東洋製鐵會社	四〇〇〇	三〇〇〇	—	—	—
日本特殊鋼合資會社	六〇	—	六三五	五三	三分
日本製鋼所	三〇〇〇	三〇、〇	社債八八〇 五七五	四、六〇五	六八九 五分
日本鋼管會社	二一〇〇	二〇〇〇	社債七〇〇	一、二九二	六〇一
同電氣製鐵所					
帝國製鉄會社	二〇〇	一八〇	一五	—	—
神戸製鋼所	一〇〇〇	六三五	—	三、六九二	一七一 九分
神戸製鋼所廣島工場					
神戸製鋼所脇濱工場					
隅田川精鐵所	三〇〇	一五〇	—	—	三 —
桑原鐵工會社	二〇〇	八六	一四	一三八	七 五分
日東製鋼會社	五〇〇	四〇〇	一〇〇	八四	—
日東製鋼會社月島工場					
東京鋼材會社川崎工場					
東京鋼材會社	三〇〇	三〇〇	一〇八	—	—
長崎製鐵會社	五〇〇	一三五	—	—	— 計畫中止
戸畑鑄物會社	一〇〇	一〇〇	二五	一一七	二 二割
安來製會所	一五〇	一〇〇	八一	—	—
三菱造船長崎製鋼所	投資金五五〇	投資金の外判明せず			
同神戸造船所	投資金五五	投資金の外判明せず			
日本鑄鋼所	一五〇	七五	一〇	九一	二六 五分
富士製鋼會社	三〇〇	三〇〇	—	—	—
日本高速度鋼會社	三〇〇	八五	七九	—	—
岩淵製鋼所	一五〇	六〇	二九	一	—
九州製鋼會社	一、〇〇	五〇〇	—	—	— 計畫設備中
日本製鐵會社	三〇〇	三三五	一九八	三三	—
大倉鑛業山陽製鐵所	一九三	投資金の外判明せず			
石狩製鐵所	一〇〇	七五	一〇九	—	— 休業
日本電氣製鐵郡山工場	三〇〇	一五〇	二	二	—
後志製鐵	五〇	五〇	二七	—	—
住友製鋼所	六〇〇	六〇〇	—	一、五五〇	七四五 二分五厘 休業
藤田鑛業廣田製鋼所	投資金一五六	投資金の外判明せず			
住友伸銅所尼ヶ崎工場	投資金四六二	投資金の外判明せず			
廣島鐵工場	二七	二七	三三	—	—

日本鑄鋼會社	一〇〇	二五	—	五〇	二四 一割
山陽製鐵會社	三〇	三〇	一六	二三七	—
川崎造船兵庫工場	投資金一、六三五	投資金の外判明せず			
同葺合工場	投資金一、九〇八	投資金の外判明せず			
高田鑛業大寺鋼業所	投資金一〇〇	投資金の外判明せず			
田中鑛山釜石鑛業所	投資金一、六四六	投資金の外判明せず			
九州銑鐵會社	二〇〇	七四	—	—	— 休業
福井銑鐵會社	三〇	一五	二	一	一 五分
朝日興業會社	一〇〇	八五	一五	—	— 休業
伊藤製鋼所	一五〇	一三〇	一〇	一四五	—
仙人製鐵所	三〇〇	八八	八七	七四	—
電氣製鋼熱田工場					
同木曾福島工場	二九四	一六四	五七	七四	一九 五分

第二本邦製鐵業の將來

將來に於ける我邦は鋼材需要額は既往の統計に據り年々の增加率を算出し之を標準として推定せり此の推定額は特別の事情なき限り大差なかるべし又生產額に至りては今後に於ける製鐵業の發達如何に關するが故に豫め確たる見込を立つること能はざるも假りに現在並に計畫中の製鐵設備に依る生產能力に實際作業の生產安全率を乘じたる安全見込量を表示せり、若し夫れ事業の經營宜しきを得て益々隆昌に趣くときは一層生產を增進し之に反するときは減退は免れざること勿論なりとす、次に製鐵原料たる鐵鑛及石炭の將來に於ける需要額は鐵鋼材の生產見込額を標準として推定せり又其の供給額は假に現在の狀態を持續するものとして之を表示せり而して其の結果供給不足を現したりと雖も今後銳意之が開發と取得の途を講ずるに於ては此の不足

を補充すること敢て困難に非ずと思惟せらる尚石炭の一部を我邦天然の利源たる水力電氣を以て代用すること頗る有望なるを以て之が發達利用は將來の一大要件たるべし。

甲　鐵鋼材（單位佛噸）

一　內地需要額見込

內地需要額見込表

	大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
銑鐵鑄物用	四三〇、〇〇〇	四六四、六〇〇	四九九、二〇〇	五三三、八〇〇	五六八、四〇〇
同　鋼材用	八六五、〇〇〇	一、〇六二、〇〇〇	一、二六六、〇〇〇	一、四一七、〇〇〇	一、四一七、〇〇〇
合　計	一、二九五、〇〇〇	一、五二六、六〇〇	一、七六五、二〇〇	一、九五〇、八〇〇	一、九八五、四〇〇
鋼　材	一、二九五、〇〇〇	一、三八六、〇〇〇	一、四七七、〇〇〇	一、五六八、〇〇〇	一、六五九、〇〇〇

備考　鋼材用銑鐵は鋼材生產額見込に基き各年次に於ける鋼材生產額の十一割に相當する數量を掲げ鑄物用銑鐵及鋼材は製鐵業調査會に於て調査したる數量を掲げたり。

二　內地生產見込

內地生產能力

	銑鐵	鋼材
大正九年	一、〇五〇、〇〇〇	一、〇八五、〇〇〇
同　十年	一、二八〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
同　十一年	一、三二〇、〇〇〇	一、五八七、〇〇〇
同　十二年	一、三二〇、〇〇〇	一、七七七、〇〇〇
同　十三年	一、四三三、〇〇〇	一、七七七、〇〇〇

右表は現在及計畫中の設備に基く製鐵能力を掲げたるものにして其七割二步五厘を實際の生產額と推定して見込を立つれば左の如し。

內地生產額見込

	銑鐵	鋼材
大正九年	七六一、一五〇	七八六、六二五
同　十年	九二八、〇〇〇	九六五、七〇〇
同　十一年	九五七、〇〇〇	一、一五〇、五七五
同　十二年	一、〇三九、〇〇〇	一、二八八、三二五
同　十三年		一、二八八、三二五

三　輸出入額見込

附朝鮮及臺灣に於ける需要額並朝鮮に於ける生產額見込。

四　輸入額見込

五　供給不足額見込

上記三項は各別に見込を立つること困難にして茲に掲記せし內地需要見込額と內地生產見込額とを對比し其差引不足額を移輸入額見込として掲げたり。

移輸入額見込表

銑鐵

	內地需要見込	內地生產見込	差引不足移輸入見込
大正九年	一、二九五、〇〇〇	七六一、一五〇	五三三、七五〇
同　十年	一、五二六、六〇〇	九二八、〇〇〇	五九八、六〇〇
同　十一年	一、七六五、二〇〇	九五七、〇〇〇	八〇八、二〇〇
同　十二年	一、九五〇、八〇〇	九五七、〇〇〇	九九三、八〇〇
同　十三年	一、九八五、四〇〇	一、〇三九、〇〇〇	九四六、四〇〇

鋼材

	內地需要見込	內地生產見込	差引不足移輸入額
大正九年	一、二九五、〇〇〇	七八六、六二五	五〇八、三七五
同　十年	一、三八六、〇〇〇	九六五、七〇〇	四一〇、三〇〇
同　十一年	一、四七七、〇〇〇	一、一五〇、五七五	三二六、四二五
同　十二年	一、五六八、〇〇〇	一、二八八、三二五	一七九、六七五
同　十三年	一、六五九、〇〇〇	一、二八八、三二五	三七〇、六七五

朝鮮に於ける製鐵所並に滿洲に於る邦人干與の製鐵所の製品は主として移輸入せらるゝものと認めらるゝを以て其

製鐵能力並に之に基く生産額見込を左に掲げたり。

朝鮮に於ける鐵鋼材生産能力

大正九年より同十三年迄毎年銑鐵十萬佛噸、鋼材四萬三千佛噸。

朝鮮に於ける鐵鋼材生産見込

大正九年より同十三年迄毎年銑鐵七萬二千五百佛噸、鋼材三萬千百七十五佛噸。

備考　生産額は能力の七割二分五厘に相當するものとして推算せり。

尚ほ八幡製鐵所が支那漢冶萍公司より供給を受くべき銑鐵數量は大正九年度に於て約八萬佛噸、大正十年度以降は年々約二十萬佛噸乃至二十五萬佛噸の見込なり、朝鮮、臺灣に於ける需要額は見込を立つる事困難なり。

參考附記　生産額は能力の七割二分五厘に相當するものとして推算すれば滿洲に於ける鐵鋼材生産能力及び同生産見込左の如し。

鐵鋼材生産能力

銑鐵大正九年より同十三年迄毎年二十五萬佛噸、鋼材大正十年より同十三年迄毎年九萬五千佛噸。

鐵鋼材生産見込

銑鐵大正九年より同十三年迄毎年十八萬千二百五十佛噸、鋼材大正十年より同十三年迄毎年六萬八千八百七十五佛噸。

乙　製鐵原料

一　內地需要額見込

鐵鑛及石炭需要額見込　（單位千佛噸）

		大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
鐵鑛		一、五三三	一、八五六	一、九一四	一、九一四	二、〇七八
石炭	銑鐵製造用	一、五三三	一、八五六	一、九一四	一、九一四	二、〇七八
	鋼材製造用	一、四一五	一、七三八	二、〇七一	二、三二八	二、三二八
	合計	二、九三七	三、五九七	三、九八五	四、〇三二	四、三九六

備考　銑鐵製造用鐵鑛及石炭は銑鐵一噸に付各二噸宛を要するしものと各年次に於ける銑鐵生産額見込に依り算出したり鋼材製造用石炭付にては鋼材一噸に付一噸八分を要するものとし各年次に於ける鋼材生産見込に依り算出したり。

二　內地産出額見込

鐵鑛及石炭産出額見込　（單位千佛噸）

		大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
鐵鑛		三六三	三六三	三六三	三六三	三六三
石炭		三、二七一	三、二七一	三、二七一	三、二七一	三、二七一

三　移出入額見込

附　朝鮮に於ける需要額及産出額見込

移出入額並に朝鮮に於ける産出額は見込を立つること困難なるも鐵鑛に付ては契約等に依り大正九年以降朝鮮の价川、載寧、安岳、般栗及利源等より移入せらるべき數量は年々合計約四十一萬佛噸乃至四十五萬佛噸に達する見込なり。

朝鮮の鐵鑛及石炭　要見込　（單位千佛噸）

		大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
鐵鑛		一四五	一四五	一四五	一四五	一四五
石炭	銑鐵製造用	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五
	鋼材製造用	五六	五六	五六	五六	五六
	合計	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一

備考　本表は內地に於ける鐵鑛及石炭の需要額見込表と同一方法に依り算出したり。

四　輸入額見込

石炭に付ては銑鐵製造用炭即ち骸炭用炭の約一割五分は支那より輸入せらるべきを以て左表の如く各年次の輸入額

を推定せり。

骸炭用炭輸入額見込

大正九年	二二八、三〇〇佛噸	同十年	二七八、〇〇〇佛噸
同十一年	二八七、一〇〇	同十二年	二八七、一〇〇
同十三年	三一二、七〇〇		

次に鐵鑛に付ては輸入額の見込を立つること困難なるも契約等に依り大正九年以降支那漢冶、萍公司、金嶺鎮、大平府、本溪湖、桃冲等より輸入せらるべき數量は年々合計約百萬噸に達するの見込なり。

五　供給不足額見込

石炭に付ては前記骸炭用支那炭の外當分の間內地に於て自給し得るものと認む、鐵鑛に就ては將來の內地產出額は最近(大正八年)に於ける產出額と同一と假定し之に前記朝鮮及支那よりの移輸入見込額を加へ其合計を以て供給額の總計と認め之を內地需要見込額に照して其差額を供給不足額と推定せり。

鐵鑛供給不足額見込　(單位千佛噸)

	大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
內地產出見込	三六三	三六三	三六五	三三	三六三
朝鮮より移入見込	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
支那より輸入見込	一、000	一、000	一、000	一、000	一、000
合計供給額見込	一、八一三	一、八一三	一、八一三	一、八一三	一、八一三
內地需要見込	一、五三二	一、八五六	一、九一四	一、九一四	二、〇七八
差引供給過不足見込	二九一	不足四三	不足一〇一	不足一〇一	不足二六五

第三　本邦製鐵業振興の根本方針

本邦に於ける鐵、鋼材の需給關係を見るに其生產額は其需要額に對し猶著しき懸隔あり軍需品として最大重要なる鐵鋼材の自給力此の如きは國防上最も憂慮に堪へざる所なりとす、又經濟上より之を見るに製鐵事業は造船、機械其他諸般の工業に對する基礎工業にして未だ製鐵事業の振興なくして之等工業のみ獨り安全確實なる發達を見ること蓋し之れあらざるなり、更に外國貿易に就て之を見るも、鐵、鋼材及其製品に對し之が自給の途を講ずることをなさざるに於ては將來益々輸出入の均衡を失するに至るべし之等の理由に依り製鐵事業は之を普通工業と同一視すること能はざるが故に國家に於て適切の保護を加へ以て其發達を期せざる可らず、而して之が爲め需要者に對し多少の不便を與ふることあるべしと雖も此の如きは將來の利便を齎すべき已むを得ざる經路にして一時的の苦痛たるに過ぎず之を要するに國運の振興を圖り文化の發展を促すが爲め鐵、鋼材の自給を以て根本方針と定め官民協力して奮勵努力以て速かに終局の目的を達せん事を期せざるべからず。

第四　前項根本方針達成の方法

甲　製鐵業の組織竝經營

製鐵事業は之を合同經營するを必要と認む而して此の目的を達成する爲各製鐵所は便宜合同又は經營の委託を爲し且原料の取得、生產の配分等を共同にするの目的を以て諸製鐵所相寄りてシンヂケートを組織するを可とす。

乙　製鐵業の保護

一、關稅竝補助金

銑鐵には從價一割、鐵、鋼材には從價約一割五分の輸入稅を課し（別表參考）造船材料として使用する鋼材には輸入稅を免除するを必要と認む。

協定稅率の適用ある鐵鋼材に付ては其の協定條約の存續する期間其の製造業者に對し前項の改正稅額と協定稅額との差額を標準とし之に相當する金額を補助金として交付するを要す本邦鐵鋼材を造船用に使用したる場合に於ては其の鋼材の使用者に對し其の輸入稅額を標準とし之に相當する金額を補助金として交付するを必要と認む。

前項補助金の方法を採用せざるときは造船材料の製造工業發達の途なく延いて製鐵業の進歩を阻害するを以て造船材料として使用する鋼材に對しても亦第一項の稅率に依り課稅を爲すを要す。

二、其の他の保護

（イ）製鐵業奬勵法を改正し同法に規定せられたる設備を以て現在製鐵業を營む者に對しては今後十箇年間營業稅及所得稅を免除するを要す。

（ロ）電氣製鐵業に付ては製鐵業奬勵法を改正して低燐銑鐵業と同一の保護を與ふるを要す。

（ハ）政府の工事に使用する鐵鋼材は原則として本邦產のものを以てするを要す。

（ニ）製鐵原料並に製品の海上並に陸上に於ける運搬に付ては相當の保護を與ふるを要す。

（ホ）製鐵業は其の性質上巨額の資本を固定することを要する大規模の企業たるを以て其の資金の融通に付ては特に利便を當業者に與ふる方策を講ずるを要す。

丙　製鐵原料の供給確保

製鐵原料の供給確保に付ては外國產原料の取得、原料輸送の改善、原料の利用節約、原料の調査及原料の產出促進を圖るを必要とす。

丁　製鐵技術發達の促進

製鐵技術發達に付ては製鐵の研究の奬勵並に各研究所の連絡、技術者及職工の養成、製品の規格統一等を圖るを必要とす。

戊　我滿洲其他に於ける邦人干與の製鐵事業

滿洲其他に於ける邦人干與の製鐵事業に付ては本邦製鐵業を阻害せざる程度に於て之を保護するを必要と認む。

輸入稅率

品目	現行國定	現行協定	改正希望
四六二、鐵			
一、塊及錠			
甲、一銑鐵	每百斤 一〇錢	同八錢三	從價一割
二低燐銑鐵			
乙、スピーゲルアイゼン	一六		
丙、フエロマンガニース	每百斤 二五		
丁、フエロシリコン及シリコンスピーゲルアイゼン	每百斤 二〇		
戊、フエロクローム、フエロニツケル、フエロアルミニウム其他不可鍛性鐵	從價 五分		

己、其　他

イ、インゴット、ブルーム、ビレット及スラップ　毎百斤　五〇錢　……

ロ、シートバー及テインバー、ツールスチール、ケッグ　……　……

ハ、スチール及バンブースチール　毎百斤　六〇錢　……

ニ、其の他　從價　七分五厘　……

二、條及竿（テー形、アングル形等の形狀を有するものを含む）

甲、溝形のもの　毎百斤　六〇錢　……

乙、其の他　同　九〇　……

三、ワイヤロット（卷きたるもの）

四、鈑

甲、金屬を鍍せざるもの

甲ノ一、有紋のもの　同　七〇　……

甲ノ二、波形のもの　同　一、三五　……

甲ノ三、其の他

イ、厚〇、七ミリを超えざるもの　同　四〇　……

ロ、厚一、五ミリを超えざるもの　同　七五　……

ハ、電氣用薄板　……　……

ニ、其の他　……　六〇　……

從價壹割五步

乙、卑金屬を鍍したるもの

乙ノ一、錫鍍したるもの（葉鐵鋼）

イ、尋常のもの　毎百斤　九〇錢　同七〇錢

ロ、晶鍍したるもの　同　二、三五

乙ノ二、電鍍したるもの

（波形と否とを別たず）　同　二、〇〇　同一、二〇

從價一割五分

乙ノ三、其の他　從價　二割　……　規行の通り

五、線

甲、金屬を鍍せるもの

イ、徑一、五ミリを越えざるもの　毎百斤　一、一五錢　……

ロ、其の他　同　一、〇〇　……

乙、卑金屬を鍍したるもの　……

從價一割五步

乙ノ一、電鍍したるもの

イ、徑一、五ミリを超えざるもの　同　一、三五錢　……

ロ、其の他　同　一、二〇　……

乙ノ二、錫鍍したるもの　從價　二割　……　現行の通り

乙ノ三、其の他　從價　二割　……　現行の通り

六、リードワイヤ　毎百斤　一、八五錢　……

七、リボン　同　一、五〇　……

八、帶（箍鐵）

甲、金屬を鍍せるもの　同　五〇　……

乙、卑金屬を鍍せるもの　從價　一割　……

從價一割五分

九、バラゴンワイヤ

甲、金屬を鍍せるもの　毎百斤　四、一〇錢　……

乙、卑金屬を鍍せるもの　從價　二割　……　現行の通

一〇、綿索及撚合線（卑金屬を鍍したると否とを別たず）　毎百斤　六、〇〇錢　……　從價二割

一一、バーブドツウイストワイヤ　同　二、二〇　……　從價一割五步

一二、筒及管（別號に掲げざるもの）

甲、金屬を鍍せざるもの

甲ノ一、エルボー及ジョイント

イ、不可鍛性のもの　毎百斤　二、四〇　……　從價一割五步

ロ、其の他　同　二、八〇　……　同

甲ノ二、其の他

イ、鑄鐵管　同　一、〇〇　……　從價一割

ロ、鋼管

一、抽きたるもの　同　三、〇〇錢　……

二、其の他

イ、繼目なきものにして內徑十六センチを超えざるもの　同　一、九〇　……

ロ、鑞接したるものにして內徑五センチを超えざるもの　表　二、五〇　……

從價貳割

ハ、其の他　同　一、一〇　……

乙、卑金屬を鍍したるもの　從價　二割　……　現行の通り

一三、屑及故（改造用のみに適するもの）　無稅　……　同

四七七、一、鐵釘　毎百斤一、二五錢
甲、金屬を鍍せざるもの　同　二、五五
乙、其の他　同　四、五五
三、鐵螺旋釘　同　二、〇〇
五、鐵牝牡螺旋釘及ワッシヤ　同　一、四〇
六、鐵リベット　同　一、四〇
七、ドッブスパイプ
四八二、鐵道建設用材料　毎百斤　八〇錢
一、レール　同　一、八〇
二、ポータブルレール　同　二、五五
三、ターンテーブル及部分品　同　一、一〇
四、フイッシュプレート、タイプレート及スリーパー　從價二割五分
五、其の他　從價一割五歩
四八三、一、電線支柱及同部分品　毎百斤一、八五錢　現行の通り
四八四、家屋、橋梁、船舶船渠等の建築材料
一、鐵のみを以て製したるもの　同　一、九〇
四八五、瓦斯ホルダー液體タンク及同分部品　同　一、九五　從價壹割五分
四八五、二、壓搾瓦斯塡充用鐵製シリンダー　同　三、〇〇
四八八、錨（鐵製のもの）　同　一、九五
四八九、鏈
二、甲、ロの二　毎百斤二、〇〇
（一個の重量五〇〇瓦を超えたる鐵製のもの）
四九六、工匠具
一、鐵砧　同　二、五五
二、鐵槌　同　四、〇〇　從價壹割五歩
十、ショベル及スコップ
甲、有柄のもの　同　四、一〇
乙、其の他　同　二、一〇
五六二、一、車輪及車軸
甲、機關車用のもの　同　二、四〇
乙、其の他　同　一、五〇
二、タイヤー　同　一、五〇
三、バッフア及スプリング　同　三、〇〇

（完）

◎鐵物在庫數量

我國の昨年度銑鐵生產高は合計百三拾二萬噸にして其內容は八幡五拾萬噸、釜石十五萬噸、輪西十五萬噸、東洋製鐵十三萬噸、兼二浦十二萬噸、本溪湖十一萬噸、鞍山十六萬噸等なり。

右の內東洋製鐵所は本年一月より一箇年間八幡製鐵所の委託經營の下にあるより結局市場に關係を有するものは六十九萬噸に過ぎざるも財界の不況は依然として容易に恢復すべき見込なきのみならず需要減少の結果本年は十萬噸內外の生產に止まるべく尙ほ四月末日現在に於ける鐵物內地の在庫品は十九萬六千噸にして三月末の二十五萬三千噸に比すれば五萬七千噸の減少を見たり、最近に於ける東京大阪等の鐵物在庫數量左の如し。

	東京	横濱	神戸	大阪
棒	一九〇	三〇〇	八〇	七〇
板	九〇	一二〇	一八九	一〇〇
型	七四	…	八七	二〇
針	一四	二三	八	一九
金物	一〇	一八	五	五
釘	…	…	二六	四四
鋲	九	一八〇	一〇	一四
レール	一八	八	四八	一三
鐵（亞鉛引）				

其他各地に散在せるもの二千八百噸にして今後の在庫品は漸次減少するならんも之れを以て直に市價の强調を見るべしとは容易に信ずる能はざるべしと云ふ。